

# 松原寺通信

第十九号 令和七年十一月二十日  
発刊 松原寺 彦根市松原二丁目  
発行 責任者 佐々木 亮 釋亮真

## 大谷本廟への納骨について

ご門徒のお宅でお経をお勤めしているとお骨がお仏壇の中に何年もそのままになっているのを見かけます。基本的に、お仏壇は、ご本尊である阿弥陀如来(名号、絵像、木像)をご安置する場所であり、お骨を置く場所ではありません。スペースの問題で、一時的に仮置きするならば、何年も置きっぱなしは、余りよろしくありません。一度、月参りや法事の時などに相談して頂けると助かります。お墓の持ち方や、お骨の扱いも時代とともに変わってきています。その辺りも加味しながらお答えできると思っています。※松原寺は墓地、本堂

に納骨スペースがあります。

浄土真宗の門信徒である我々は、伝統的に分骨を行ってきました。つまり分骨とは、亡き人のお骨を二つに分け、一つは地元のお墓、もう一つは京都の大谷本廟に納骨する儀礼の事です。なぜ東山五条の大谷の地かと言いますと、そこは、現在の本願寺や教団のルーツにあたる場所だからです。聖人がお亡くなりになった後、この地で茶毘に付されます。その後、聖人の娘である覚信尼様が六角形の廟堂を建てられ、ここに聖人のお骨を収められました。これが今ある本願寺の原型となります。親鸞聖人の遺徳を偲び、聖人のおそばに納骨できることは、お念仏



報恩講のお昼の様子です

の教えを抛り所とする私達にとつて、非常に有難い事なのです。

さて、そんな大谷本廟への納骨について、希望者がある程度まとまれば、**バスを用意しての団体納骨**を考えています。人数の把握をしたく思いますので、お考えの方は、一度お尋ね下さい。お隣の京都でも、一人ではなかなか行けない。そんな方がわりとおられると思います。

尚、納骨の冥加金は、1体あたり3万円をご本山に納めて頂きます。また、バス代や食事代等を調べ、一人当たりの費用を算出する予定です。人数が集まらない場合は行いません。

## 報恩講

今年もおかげさまで、報恩講が勤まりました。毎年、少し変化を加える事を念頭に置きながら計画していますが、お参りに来て下さった皆様、如何でしたでしょうか？子どもプレ報恩講から始まり、報恩講当日の午前から夜の部まで、非常に幅広い年代の方がお寺に足を運んでくださいました。年に一度の大事な行事です。今後、ご門徒皆様と共に一所懸命勤めてまいります

## お知らせ

・朝の会

毎月第2土曜日

6時30分〜7時過ぎまで

十二礼のお勤めと、住職の法話

・春季永代経法要

3月17日 13時半

法話 九條義孝師